

国際交流・教育で勝山から福井を元気に！



えんフレンズの皆さん
(右から)ヘネシー絵美さん、藤堂 智江さん、前田 恵里さん

さん他2人を中心に、国際交流・教育を通して、世界と繋がるひとやまちづくりを目指す団体です。

「えん」に込められた想い

- ・円(優しく、他を受け入れる)
- ・炎(情熱的に何事にもチャレンジ)
- ・縁(出会い、チャンスを活かす)
- ・援(助け合い、仲間と成長)
- ・enjoy (人生を楽しむ)

4月30日、子どもたちが共通語である英語を使って様々な国の方々と交流するイベント「国際交流デイキャンプ」が教育会館と中央公園を会場に行われました。

このイベントを企画したのは、今年の2月に活動を開始した任意団体「えんフレンズ」です。

えんフレンズは、2020年に勝山市に移住されたヘネシー絵美

メンバーの3人は、これまで、企業のグローバル人材育成や政府の青少年国際交流プログラムの開発、英会話・日本語カフェ、留学生のサポートなど、それぞれが仕事や地域活動を通して国際交流・教育に携わってこられ、その経験や人脈を活かしながら、3つの事業を柱に活動を計画されています。



図形を用いたアイスブレイキング

一つ目の事業は「人材育成事業」です。団体として初めて企画した国際交流デイキャンプもその一環で、ヘネシーさんは「この年代の子どもたちには、楽しく異なる言語や文化に触れ、体験することで、世界をより身近に感じて興味を持ってもらいたいです。また、小学校から始まる英語学習への抵抗も減らせたらと思います。」と話されていました。

今後も継続的にイベントの実施を予定され、宿泊を伴ったプログラムも構想されています。

2つ目の事業は「留学や訪日外国人のサポート事業」です。異文化交流を楽しみたい方のサポートや勝山を訪れる外国の方に勝山の魅力を知ってもらえるようなインバウ



スタンプラリーに挑戦中！

えんフレンズの活動は、勝山の子どもたちの成長や地域の魅力をアップさせるだけでなく、交流する方々による情報発信によって、観光誘客や子育て世帯の移住などにも繋がることにも期待がふくまれます。



えんフレンズへのお問合せ・相談はこちら

勝山高校
コラム

「ひびきは空に」〜まこと真・誠・信〜



勝高HP

新任のあいきり

4月7日に入学式を行い、これまでの普通科83人に加え、新たに設置した探究特進科25人の生徒を含め、合計108人の新入生を迎えました。

入学式および始業式では、生徒のみなさんに、新たな枠組みを取り入れた勝山高校をみなさんの手でつくってほしいこと、探究活動をはじめとした学校での学びを楽しんでほしいことを願いました。

今年度もコロナウィルス感染症の収束についてはまだ先が見えない状況で、学校の活動が制限される場合もありますが、生徒・保護者および地域のみなさまから信頼され、愛される学校となるよう、本校教職員とともに頑張つて参ります。

引き続き、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



校長 朝倉 剛司



専門・各種学校▼福井県立看護、武生看護、福井歯科、大原簿記法律、大原スポーツ医療保育福祉、天谷調理製菓など

就職▼公務員、福井県警察、自衛隊(一般曹候補生)、民間…三菱自動車工業(株)、ニチコン製造(株)、(株)野田電気その他▼海外留学

商工文化課 主査(学芸員) まち すみあき 澄秋

化石が教えてくれること



獣脚類の足跡化石

化石とは、かつて生きていた生物の体や生活の痕跡が地層の中に残ったものです。体の中で骨や歯、殻といった部分は腐らないので化石になりやすく、筋肉などの腐りやすい部分は基本的に化石になりません。生活の痕跡が化石として残るものの例としては、足跡や巣穴などが挙げられます。これらの化石は現代の私たちに何を教えてくれるのでしょうか。

生物の体や行動の変化

生物は、周囲の環境の変化に対応して、体や行動を変化させ子孫を残してきたものが、現在見られる生き物です。その過程で、子孫を残せず、絶滅した生き物も多くいました。私たちは、化石を通して生物の進化と絶滅の記録を知ることが出来ます。また、昨年度の福井県による第4次恐竜化石調査では、恐竜の連続した足跡化石が発見されましたが、今後の研究次第で、その恐竜がどんなふう歩いたのかを知ることが出来る可能性があります。

昔の気候・環境

ある特定の環境だけで暮らすことが出来る生き物の化石からは、

その地層ができた時代の環境を知ることが出来ます。例えば、野向町の牛ヶ谷には、牛ヶ谷層という約500万年前の地層があり、そこからブナの葉の化石が見つかったため、温帯のやや寒冷な気候だったことが推測されています。

地層のできた時代

これまでの研究の積み重ねによって、地層から発見される化石によってその地層のできた時代を知ることが出来ます。例えば、三葉虫は古生代に生きた生き物で古生代の末期で絶滅しています。したがって、三葉虫の化石が見つかるとその地層は古生代の地層ということが出来ます。

未来の地層

海や湖の底などでは、現在も土砂がたまり続けています。数百万年もするとそれらが陸上に地層として表れて、誰かが調査することになるかもしれません。現在の海や川で見かけるゴミから考えると、その地層からはゴミが見つかることが予想されます。こんな状況は悲しいので、なるべくゴミを減らして、「この時代まではゴミがあったけど、この時代からはゴミが減った」といわれる地層を作っていきたいですね。